

「けやき俳句の会」会報(第百八十回)

平成三十年六月六日

第百八十回句会記録

★日時 六月六日

★場所 けやき学習室

★参加者 二十三名

(総数六十九句)

★真樹先生投句

④虹二重遺墨を指でなぞりけり

①指笛で無聊なぐさむ青草原

幼児と指切りげんまん袋掛

★真樹先生選句 (◎は特選)

◎④みおろせば棚田代田に月の貌

◎④風薫る指吸う乳児抱かれて

◎③蛩舞ふ山里深き先祖墓

⑨更衣二の腕風に落ちつかず

⑤角隠の花嫁潮来の白菖蒲

④指呼の間の老鶯の声夜明けかな

④夏つばめ島の教会畳敷き

②綾取りをする指と指子供の日

②柔らかき指もて園児らの裸足

①ふるさとの砂丘捨舟さみだるる

①梅雨近き営業指針やゝ気重

① 手作りの紙の指輪を母の日に
① 指差掛け天道虫が渡り来る
東洋 藍愛

★会員互選句

⑤ 夏めくや指先美しく聴診す 隼人
 ④ 拇指を立てる少年梅雨晴間 史烙
 ④ 肩たたたく孫の指さき夏の蝶 而今
 ④ 梅雨籠る箱の指貫所在なし 夕佳
 ④ わらべ指す空に猫バス青田風 清明
 ③ 天仰ぎ地獄覗ける浮巢かな 夢城
 ③ 真宗の大屋根聳ゆ麦の秋 冬水
 ③ 飛び立ちて空色になる天道虫 かな太
 ② 梯梧咲く森深閑と生き生きと 秋雲
 ② にぎり飯朝の賄い母の指 青嵐
 ② ②旅立ちの心も濡らす五月雨 秋雲
 ② 紅薔薇や今もときめく心あり 春草
 ② 空うまし万緑下に見ゆる時 春草
 ② 初夏や指差し確認運転士 夕佳
 ② お似合いと被せて貰う夏帽子 要
 ② 卯波立つ一握の砂指すべし 樹音

【次回開催】

★日時・七月四日(水)

★場所・けやき学習室

★提出句・兼題「落」を含み三句

冬水

誠

香魚

隼人

高志

而今

遥風

隼人

東洋

清明

夢城

冬水